

英文学、米文学、英語学、英語教育学・コミュニケーションの分野で、豊富できめ細かい指導を行います。

英文学、米文学、英語学、英語教育学・コミュニケーションの分野で、豊富できめ細かい指導とカリキュラム編成がなされています。また、博士前期課程では、大学院英文学専攻課程協議会（英専協）に加盟する他大学院（上智、聖心女子、津田塾、東京女子、東北学院、東洋、日本女子、法政、明治、明治学院、立教）で委託聴講生として修得した単位は、10単位を限度として修了要件単位に算入できます。

コミュニケーション領域においては、言語使用者の諸属性を含めたコンテキストの中での言語現象に関する研究、通訳理論研究や通訳訓練の英語教育への応用、英語話者の言語・非言語コミュニケーションの分析など、多様な演習と講義を開講しています。

博士前期課程では、2020年度から「一般入試 [A方式・B方式]」「内部進学入試」を開始します。

教員紹介

英文学



麻生 えりか Erica Aso

イギリス小説

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程満期退学。専門は現代イギリス小説。主な研究テーマはアウトサイダーと戦争の表象。共著書に『終わらないフェミニズム——「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016年）、『戦争・文学・表象——試される英語圏作家たち』（音羽書房鶴見書店、2015年）、『もっと知りたい名作の世界⑥ ダロウェイ夫人』（ミネルヴァ書房、2006年）など。訳書に『テロリズム——その論理と実態』（青土社、2004年）、共訳書に『D・H・ロレンス全詩集』（彩流社、2011年）など。



Thomas Dabbs トマス ダブス

演劇・文化研究

My training and teaching is primarily Shakespeare and Early Modern drama. I also teach the English Bible. My research and recent publication has been on using digital humanities platforms to examine the rise of secular drama during the Elizabethan period.



伊達 直之 Naoyuki Date

イギリス詩・文化研究

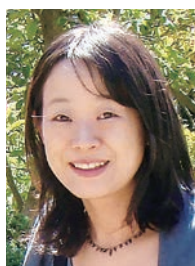
専門は英詩・英語詩と「詩学」。19世紀から20世紀の英国・アイルランド文化研究。言語、美術、建築、映像、音楽、アニメ等様々なメディア表象の文化論的研究。現在のテーマは戦争表象における倫理の働きや、日本、ヨーロッパ、米国歌の比較研究。共著書に『戦争・詩的想像力・倫理』、『戦争・文学・表象——試される英国圏作家たち』、『ギリシア劇と能の再生』など。論文に『Ezra Pound and American Little Magazines, 1912-1919』（英国ヨーク大学 Ph.D. 学位論文）など。



久野 陽一 Yoichi Kuno

イギリス小説

主にイギリス 18 世紀—17 世紀終わりの名譽革命体制から 19 世紀初頭までを含めた「長い 18 世紀」—の文学を、社会や文化の問題も重ねながら読んでいきます。イギリス近代小説勃興論、在英黒人文学・文化、オリエント物語などに関心があります。共著に『ローレンス・スターンの世界』（開文社出版、2018年）、翻訳書に『アフリカ人、イクイアーノの生涯の興味深い物語』（研究社、2012年）など。



松井 優子 Yuko Matsui

イギリス小説

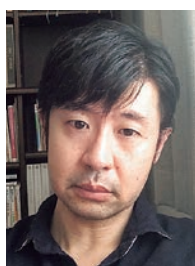
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程満期退学。専門はイギリス小説・文化。現在は主に、小説ジャンルの展開や文化的アイデンティティとの関係について、特にロマン主義時代からモダニスト・ルネサンス期にかけての歴史小説の受容を中心に研究しています。著書に『スコット』（勉誠出版、2007年）、共（編）著に『憑依する英語圏テクスト』（音羽書房鶴見書店、2018年）、『読者ネットワークの拡大と文学環境の変化』（2017年）など。



笹川 渉 Wataru Sasakawa

イギリス詩

初期近代イギリス文学、特にジョン・ミルトンを始めとする、エリザベス朝から王政復古期までの作家による韻文を専門としています。文学と政治・宗教の関わりについて、同時代の印刷本の図版や絵画も手がかりにしながら考察しています。共著書に『Spenser in History, History in Spenser』（大阪教育図書、2018年）、『17世紀の革命／革命の17世紀』（金星堂、2017年）、『十七世紀英文学を歴史的に読む』（金星堂、2015年）など。



田中 裕介 Yusuke Tanaka

イギリス文学・文化

一橋大学大学院言語社会研究科博士課程修了（学術博士）。専門は、イギリス 19 世紀の文学・文化。現在は主に、オスカー・ワイルドの著作を、歴史学、文献学、人類学、古典学との関係において研究する。共著に、『混沌と抗戦——三島由紀夫と日本、そして世界』（水声社、2016年）など。翻訳書に、フランク・トレントマン『フリートレイド・ネイション』（NTT出版、2016年）、フランコ・モレッティ『ブルジョワ』（みすず書房、2018年）など。

教員紹介

米文学



外岡 尚美 Naomi Tonooka

アメリカ演劇

ハワイ大学大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門は演劇学、特に 20 世紀から現代までのアメリカ演劇とパフォーマンス・アートを研究対象としています。最近のテーマは 20 世紀後半以降の舞台芸術における苦痛の表象およびリベラリズムについて。授業ではモダンドラマの古典的名作から前衛劇までを演劇の諸理論をふまえながら読みます。共著『戦争・詩的想像力・倫理』、『都市』のアメリカ文化学、『ギリシア劇と能の再生―声と身体』の諸相、『境界を越えるアメリカ演劇』等。



Mary A. Knighton メアリ A. ナイトン

アメリカ研究・文学

アメリカ地域／リジョナリズムとグローバルモダニズム (日本文化も含む) との絡み合いのほか、ポストコロニアル理論やフェミニスト理論・文学批評などが関心の対象です。In English, let me add here that my research in recent years has focused on print culture, particularly illustration and cover art, together with the business of the literary book. In Japanese and English both, I continue to research and work on environmental issues, too, as they intersect with my book project on insects (and *mushi*) in Japanese literature.



結城 正美 Yuki Masami

アメリカ研究・文学

ネヴァダ大学リノ校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門はエコクリティシズム、環境文学研究。比較研究的・学際的見地から、汚染と食の言説、リスク感覚の多元的表出、人新世をめぐる文学的課題等に取り組んでいます。著書『水の音の記憶―エコクリティシズムの試み』(水声社、2010 年)、共編書 *Ecocriticism in Japan* (Lexington, 2018)、共著書 *The Routledge Companion to the Environmental Humanities* (Routledge, 2017)、*A Global History of Literature and the Environment* (Cambridge UP, 2017) 等。



来馬 哲平 Teppei Kuruma

アメリカ詩

専門はアメリカ詩。研究テーマは、アメリカ詩人たちを、主にクイア批評の観点から再考すること。論文に "Close, Cool, High": Hart Crane's "Southern Cross" and Mobilizing a Distant Closeness" (The Journal of the American Literature Society of Japan, no. 14, 2016)、『"Thou Shalt Not Always Walk in the Sun": Ezra Pound の『未熟』な主体』(『Ezra Pound Review』第 20 号、2018)、『"But I Never Knew You Anyway"—SNS 時代の Frank O'Hara』(『日本アメリカ文学会東京支部会報』第 79 号、2018) など。



西本 あづさ Azusa Nishimoto

アメリカ小説・文化研究

専門はアフリカ系アメリカ文学・文化研究。アメリカ文学・文化におけるキャンノン形成、人種表象、多民族国家における記憶と歴史表象、文化的帰属の研究。現在のテーマは、公民権運動後のアフリカ系アメリカ文学・文化形成と時代の相関関係の分析。共著書：『新たなトニ・モリスン』、『ターミナル・ビギニング』、『カリブの風』他。訳書：『アメリカ先住民の宗教』、『トニ・モリスン―寓意と想像の文学』(共訳)、『世界文学史はいかにして可能か』(共訳) 他。



齊藤 弘平 Kohei Saito

アメリカ小説・文化研究

19-20 世紀のアメリカ文化、小説、知識史を対象とし、いかにして美や価値、生と性、健康と病気、自己と他者等々を巡る、近代的な「知」の構造が生産されたり、共有されたり、あるいは放棄されたり復活したりしてしまうのか? を研究しています。文学や映画から大衆音楽や家電製品まで、広くアメリカ文化全般について、歴史的な実証研究と理論的な分析研究の両輪を、ほぼよいバランスで回転させられるように、いつも研究者としてのふれない体幹を磨いています。専門は 19 世紀末の心理学、20 世紀アメリカのリアリズムおよびモダニズム小説、20 世紀後半 (ポスト構造主義以降) の批評理論です。最近では、障害学 (disability studies) の観点から、アメリカ文学・文化における身体表象について考えることをプロジェクトにしています。



若林 麻希子 Makiko Wakabayashi

アメリカ小説・文化研究

ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門はアメリカ小説。現在の研究テーマは、初期アメリカ文学におけるニューヨークの意義について再検討を加えています。他にも、18～19 世紀建国期文学、女性文学、家庭小説、書簡体小説などに関心をもち研究を行っています。共著として『アメリカ文学入門』(三修社、2013 年)、『アメリカン・レイバー』(彩流社、2017 年) 等。

英語学



Elin McCready エリン マクレディ

英語学／言語学

Thinking about meaning in linguistics and philosophy is a way to access knowledge you didn't know you had: about how you think, about how word interacts with world, about how our views are framed by their language. This course will help you find it.



中村 光宏 Mitsuhiro Nakamura

音声学・音韻論

ロンドン大学ユニバーシティコレッジ音声学・言語学科博士課程修了 (Ph.D. in Phonetics)。専門分野は音声学・音韻論です。音声産出・知覚機構における調音運動の制御と言語構造との関係を研究しています。話しことばにおける発音変化、音形選択の要因、英語発音の多様性、外国語学習者の音声産出など、言語の観点から音声の調音・音響・知覚の特性を探索し、音声コミュニケーションの仕組みを解明したいと考えています。



中澤 和夫 Kazuo Nakazawa

英語学・言語学

専門は英語学・言語学。研究姿勢としては記述理論言語学。これは、記述理論の言語学ではなくて、記述言語学と理論言語学の良いところを合わせたものをいう。様々な言語現象を正確に記述・分析して、その分析の妥当性を文法理論の観点から考察する。具体的には、複合語の強勢型、関係節構文、特殊倒置構文、文法的帰化現象など。『例解現代英文文法事典』『現代英文文法辞典』『コンサイス英文文法辞典』(以上項目分担執筆)。A Dynamic Study of Some Derivative Processes in English Grammar など。



高橋 将一 Shoichi Takahashi

理論言語学

マサチューセッツ工科大学言語学・哲学科博士課程修了 (Ph.D.)。専門は、理論言語学。文などの意味解釈が、言語の構造構築になんらかの形で影響を与えることがあるのかといった統語論と意味論のインターフェイスに関わる問題を生成文法理論の枠組みの中で研究しています。特に、移動や削除といった現象に興味があります。詳しい研究内容は、Linguistic Inquiry や Natural Language & Linguistic Theory に掲載されている論文を参照してください。

英語教育学・コミュニケーション



Joseph V. Dias ジョセフ ディアス

TESOL

Specialties:

— TESOL; Intercultural Communication
— CALL コンピューターの長所を活かして語学学習をサポートする教授法

Research themes:

- * TESOL 他言語話者に対する英語教授法
- * Investigating how CALL, and mobile technology in particular, can change the role of teachers
- * Telecollaborative intercultural exchanges



田中 深雪 Miyuki Tanaka

通訳学・翻訳学、語学教授法

コロンビア大学大学院修士課程修了（応用言語学・TESOL専攻）。研究テーマは、通訳・翻訳の理論と実践、教授法など。また通訳・翻訳者の歴史に関する研究も続けている。主な論文として「通訳・翻訳教育の視点から見るリーディング指導への不安 — 「訳す」という活動の扱いをめぐる一」『通訳教育論集』、「長崎における阿蘭陀通詞に関する考察—地役人としての立ち位置とその評価をめぐる」『通訳翻訳研究』第15号など。



大川 道代 Michiyo Okawa

パフォーマンス・スタディーズ、スピーチ・コミュニケーション

研究テーマは、社会変革のためのパフォーマンスと日常生活におけるパフォーマンス。論文に「リフレクティブ・ティーチングによる授業研究—スピーチとティベートを統合したコミュニケーション教育—」『青山学院大学文学部「紀要」第58号 61-85頁（単著）2017.3。著書に「第8章 社会変革を目指すパフォーマンスの意義と展開」「第9章 フェスティバルで発表された創作台本」「オーラル・コミュニケーションの新しい地平」（増沢泰子、野村和宏、大川道代編著）（単著）2013.6、「はしがき」、『第11章 パフォーマンス教育の意義と展開』『オーラル・コミュニケーションの理論と実践』（JACET オーラル・コミュニケーション研究会編著）（単著）2002.8など。



Andrew Reimann アンドリュー ライマン

TESOL

私のおもな研究は社会言語学であり、なかでも異文化コミュニケーションに重点をおいています。英語は世界共通語とされていますが、世界各国の多くの人々が様々な環境や文化をもっているなか、コミュニケーションをとるためには、単に言語だけではなく、その背景になる環境や文化を理解した上で、交流することが重要であります。授業においては、世界の文化を比較し、人々の異なる価値観を理解するために、言語、宗教、歴史、文化、そして世界情勢などについての知識を深めます。



Peter Robinson ピーター ロビンソン

英語学

I completed an M.A. in Applied Linguistics at the University of London, and a Ph.D. in Second Language Acquisition at the University of Hawai'i at Manoa. My areas of research are the roles of attention and awareness in implicit and explicit language learning; individual differences in cognitive abilities for learning; and effects of the cognitive complexity of task demands on interaction, learning and speech production.



横谷 輝男 Teruo Yokotani

英語学

専門領域は英語音声学・音韻論で、語強勢や音節付与が主たる興味の対象と言えます。ただ、近年は綴り字と発音の規則への関心が強く、生成音韻論的な接近方法を採用入れた「実用的な規則集」の作成に勤しむことが多いです。最近の著作としては、本学の英文学会誌や紀要に投稿した「弱母音の(u)のための発音規則」(2017年)、「[e, i]が引き起こす硬口蓋歯茎化のための発音規則」(2018年)があります。



稲生 衣代 Kinuyo Ino

通訳学

タフツ大学フレッチャ―法律外交大学院修了。専門は通訳学。通訳実務経験に基づき研究を進め、現在の研究テーマは、放送ジャーナリズムにおける通訳、通訳教育、職業としての通訳。共著に『英語通訳への道』（大修館書店）、『VOAスペシャル』（コスモピア）など。



野邊 修一 Shuichi Nobe

非言語コミュニケーション、言語心理学

シカゴ大学（The University of Chicago）大学院心理学研究科認知・コミュニケーション学専攻修了（Ph.D.）。流通科学大学専任講師、青山学院大学専任講師を経て、同教授。最近の論文等として、「ジェスチャー」（針生（編）『言語心理学』朝倉書店）、「言語とジェスチャー」（重野（編）『言語とところ』新曜社）、「身振りと言語発達」（岩立・小椋（編）『よくわかる言語発達「改訂新版」』ミネルヴァ書房）がある。



小野寺 典子 Noriko Onodera

語用論・社会言語学

米国ジョージタウン大学大学院言語学部博士課程修了。Ph.D.（言語学 ジョージタウン大学）。専門は、言語学・語用論・談話分析・社会言語学・歴史語用論（文法化・意味変遷等）。主な著書 Japanese Discourse Markers (Benjamins 2004年)、単編著書『発話のはじめと終わり』（ひつじ書房 2017年）、共編著書『歴史語用論の方法』（ひつじ書房 2018年）、Journal of Historical Pragmatics 17.2号 特集 Periphery (周辺部) (2016年)ほか編著書・論文多数。特に、英日語会話の談話標識に関心があり、共時的・通時的研究をしています。発話頭・発話末で人が何を行っているのか、そうした場所の機能も観察しています。



木村 松雄 Matsuo Kimura

英語教育学

東京大学教育学部附属高等学校文部教官教諭・東京大学教育学部講師を経て現職。NHKラジオ英語講座「基礎英語1」等3番組の講師（13年）、文部科学省中学校英語検定教科書『New Horizon English Course』編著者（30年）、文部科学省高等教育局大学設置審議委員会審議委員（外国語）、全英連全国高等学校「英語スピーチコンテスト」審査委員、東京都庁「英語村（Tokyo Global Gateway）」事業審査委員、大学英語教育学会（JACET）本部理事・関東支部長等を歴任。一貫制英語教育・言語学習方略・CLIL等を研究。



アレン玉井 光江 Mitsue, Allen-Tamai

英語教育学

テンブル大学大学院教育学研究科・博士後期課程修了。教育学博士（Ed.D.）。専門は小学校英語教育、第二言語習得。研究テーマは児童の英語リタラシーの発達と英語習得における Storytelling の効果。著書に『小学校英語の教育法—理論と実践』（2010、大修館）。『Story Trees』（2013、小学館集英社プロダクション）。『New Horizon』（編集委員 2016、東京書籍）。